

# 令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
総合柔道整復学1							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名			実務経験	
柔道整復学科・昼間部	2年	4期	大隅 祐輝			○	
分野区分	教育課程		講義形式	単位	コマ数		
専門分野	臨床柔道整復学		座学	1	10		
科目概要							
柔道整復師が臨床現場で携わる機会が多い、骨・筋・腱・神経・関節の損傷や障害を捉え適切な施術対応が出来る様に問題定義から知識を培う。							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>		「損傷」に係わる要素(運動器の構造・役割、作用等)の知識を確認して、各損傷を正しく評価するために、それに関わる解剖学的構造と機能の理解を含めるため、発生機序から合併症・各種検査法まで総合的な理解を深めるための臨床実地問題を解決する能力を習得する。					
<b>到達目標(SBO)</b> <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格率)</small>		1. 鎖骨部損傷で「病態評価」「施術行為」「後療法」について選択肢から適切な判断を選択できる。 2. 肩関節部損傷で「病態評価」「施術行為」「後療法」について選択肢から適切な判断を選択できる。 3. 肘関節部の損傷で「病態評価」「施術行為」「後療法」について選択肢から適切な判断を選択できる。 4. 前腕部損傷で「病態評価」「施術行為」「後療法」について選択肢から適切な判断を選択できる。 5. 手関節部損傷で「病態評価」「施術行為」「後療法」について選択肢から適切な判断を選択できる。 6. 手・指部の損傷で「病態評価」「施術行為」「後療法」について選択肢から適切な判断を選択できる。					
履修に必要な予備知識や技能							
柔道整復学・理論編 総論／各論 解剖学とくに運動器(骨、関節、筋)／脊髄神経							
教科書・参考書							
教科書:『柔道整復学・理論編 第6版』(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂) 参考書:『柔道整復学・実技編 第2版』(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)							
受講上の注意							
教科書は忘れないようにしてください。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	鎖骨部の損傷と肩関節部の損傷の臨床実地課題 【鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼】			P220～244	教科書 筆記用具		
第2回	肩関節部の損傷の臨床実地課題 【肩部軟部組織損傷、上腕骨外科頸骨折】			P245～262	教科書 筆記用具		
第3回	肘関節部の損傷の臨床実地課題 【上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、橈骨近位端部骨折】			P263～278	教科書 筆記用具		
第4回	肘関節部の損傷の臨床実地課題 【肘関節脱臼、肘内障、肘部軟部組織損傷】			P279～287	教科書 筆記用具		
第5回	前腕部の損傷の臨床実地課題 【前腕両骨骨折、モンテギア骨折、ガレアッジ骨折】			P288～299	教科書 筆記用具		
第6回	手関節部の損傷の臨床実地課題 【橈骨遠位端部骨折、手根骨骨折】			P300～318	教科書 筆記用具		
第7回	手関節部の損傷の臨床実地課題 【手関節部脱臼、手関節部軟部組織損傷】			P319～324	教科書 筆記用具		
第8回	手・指部の損傷の臨床実地課題 【中手骨骨折、手根中手関節脱臼】			P325～333	教科書 筆記用具		
第9回	手・指部の損傷の臨床実地課題 【指骨骨折、指脱臼、指部軟部組織損傷】			P334～350	教科書 筆記用具		
第10回	定期試験				筆記用具		
実務経験と本講義との関連について							
整形外科勤務、接骨院勤務で得た臨床経験を踏まえ、柔道整復師として外傷の判断を的確に行える様な知識を身に付けて貰える様に講義を進めていく。							
メールアドレス							
osumi@nihonisen.ac.jp							